

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（地理的分野）
-----	------------

発行者	総合的な所見
東 書	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①章の始めに導入で学習を貫く「探求課題」を示し、項ごとの「学習課題」では「どのように・どのような、どうしたら～でしょうか。」の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。</p> <p>②考察内容は、自然環境、交通・通信、人口や都市・村落、産業、伝統的な生活・文化である。 領土をめぐる問題をかかえる島々について、地理的な特色がつかめるように地図・写真が見開きで示され、理解しやすい。</p> <p>③基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキル・アップ」コーナーを設け、「読み取る」「まとめる」ができる項目が32あり、技能を網羅していくことができる。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①日本地理の単元の導入で、サブテーマ、地図や写真、キャラクターの吹き出しを記載している。 学習内容にふれる説明文は、サブテーマにせまる内容であり、学習を進める方向性が見える。</p> <p>②第4章（最終章）「地域の在り方」の「身近な地域の課題を見つける」では、17の持続可能な開発目標（SDGs）の1つ「住み続けられるまちづくりを」に関連させ、グローバルな視点を持たせ取り組むことができる。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①第1編世界と日本の姿にかかわるページ数が多く、巻頭ページにて、世界の自然や持続可能な社会の実現に向けた取り組みを取り上げることで世界の諸課題について問題意識をもって学習に入ることができる。 また、第4章「地域の在り方」において、地域課題を踏まえた課題発見・解決学習が設けられている。</p> <p>②地震や津波に関する特設ページを設けることで、より詳しく自然災害や防災についての課題意識を高めることができる。</p> <p>(エ) 第4の観点 内容の表現・表記</p> <p>①世界の各州の導入部分にイラストを使用した地図や自然や生活に関する写真を掲載し、日本の各地方の導入部分には各地方の「探究課題」に関連した写真を掲載することで、学習する地域のイメージを持てるよう工夫している。</p> <p>②使用しているすべての文字に、ユニバーサルデザインフォントを使用し</p>

ている。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①世界の各州・日本の各地方の学習の終結部に、「ウェビング」「トゥルーミン図式」といった多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を記載している。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトル・サブタイトルを示し、タイトルの下に「どのように・どのような、どうして～でしょうか。」の問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。
- ②考察内容は、自然環境、人口・都市・村落、歴史的背景・産業、交通や通信、伝統文化、自然環境である。日本の国境をめぐるさまざまな動きについて、地図・写真が示され、歴史的な経緯を示す年表があることで、対立の状況が理解しやすい。
- ③本文の学習内容を追究するヒントとなる「LOOK!」というコーナーを設けており、注目しやすい。「読み解こう」「地理の窓」のコーナーにより、知識・技能が網羅していくことができる。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①日本地理の単元の導入で、見開き2ページに「学習の視点」を明らかにし、写真や資料を記載している。
- ②第4章（最終章）に「地域の在り方」を設け、それまでの各地方で学んだ課題を復習しながらの学習が展開されている。グローバルな視点についてはここでは関連づけておらず、農村・都市の課題から見える課題解決の視点で展開されている

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①第3編日本の様々な地域にかかわるページ数が多く、日本の諸地域についての知識をより多く得ることができる。
また、第4章「地域の在り方」において、地域課題を踏まえた課題発見・解決学習が設けられている。
- ②地震や津波のかかわる内容のページが多く設けられているため、自然災害や防災についての課題意識を高めることができる。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①世界の諸地域・日本の各地方の導入部分において各7～9枚ずつ学習内容と関連した写真を掲載している。
- ②判読しやすい配色（カラーユニバーサルデザイン）やレイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）を使用している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①単元のまとめに「学習のまとめと表現」を記載しており、これまで学習した内容をもとに課題に取り組むことで、主体的・対話的な学習を行うことができる。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①章のタイトルの右に章を通しての問いを提示している。小単元では、見開きごとに、タイトルとその右横に「どのように・どのような、なぜ〜だろうか。」などの問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。
- ②考察内容は、自然環境、交通や通信、環境保全、産業、人口や都市と村落、生活・文化、自然環境である。
海に囲まれた日本の領域の特色として、国際法に基づく領土として歴史的な経過を地図や本文やコラムで示し、島と2国間の距離を明確に示すことで位置関係が理解できる。
- ③「地理プラス+」「共生」「環境」「防災」「解説」というコラム欄を設け、「技能をみがく」を23テーマ設けて網羅していくことができる。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①日本地理の導入は3ページで地方の地図、イラスト、写真、キャラクターの吹き出し、「探してみよう！」を記載している。4ページ目、見開き左上に、各単元の問いを示している。
- ②第4章（最終章）に「地域の在り方」を設けている。序説で「学ぶにあたって」を提示し、「持続可能な社会を考え続ける」というテーマを掲げている。地方ごとの学習を復習できるような書き込むページが設けてあり、地図を活用するようなまとめ方の提示になっている。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①4部構成となっており、第4部として地域の在り方を設けることで、地域について調べるだけにとどまらず、持続可能な社会と強く関連付けて学習することができる。
また、第4部「地域の在り方」において、地域課題を踏まえた課題発見・解決学習が設けられている。
- ②ハザードマップの読み取り方について特設ページを設けることで、身近な防災に関する知識や活用力を高めることができる。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①世界の諸地域・日本の諸地域では各節の冒頭に「イラスト地図」および「導入写真」ページが設けられている。
- ②ユニバーサルデザインフォントが使用されており、また、見開きのデザインやグラフ・地図などの資料には、色覚特性を持つ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「章（節）の学習を振り返ろう」では、学習した知識をもとに地理的な見方・考え方を働かせながら主体的・対話的に「章（節）」の問いを振り返ることで、深い学びにつなげることができる。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①章のタイトルページには、前章で履修した視点を活用するよう促しの説明文が提示されている。
見開きごとにタイトルの左横に「学習課題」を「どのように・どのような・なぜ～でしょうか。」などの問いかけの表現形態で、1時間の学習課題を示している。
- ②考察内容は、自然環境、人口や都市・村落、歴史的背景、産業、交通や通信、持続可能な社会づくり、自然環境である。
日本の領域をめぐる問題をテーマに、「なぜ問題が起こっているのだろうか」という学習課題を提示している。島々の位置、国境の変化を示す地図、現在の情勢が理解しやすい記述となっている。
- ③本文の学習内容を深める「地理＋α」のコーナーや、必要な技能習得ができる「スキルUP」のコーナーを設けている。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①単元の導入で見開き2ページにテーマ、地図、グラフ、写真、キャラクターの吹き出しクイズを記載し、キャラクターの吹き出しやクイズという形で問いを示している。
- ②第4章（最終章）に「地域のあり方」を設けている。追究する手順を5つ分け、予め提示し、京都市を例としている。最後はまちづくり会議を開く発信機会をつくりやすい。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①3編での構成となっており、巻頭ページには、地理の見方・考え方についてのページが設けられているため、各単元で重要となる視点をとらえやすくなっている。
また、第4章「地域の在り方」において、地域課題を踏まえた課題発見・解決学習が設けられている。
- ②「釜石の奇跡」など具体的な防災に関する例を詳しく取り扱うことで、防災にかかわる課題意識を高めることができる。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①本文との関連が的確で、世界や日本の地域的特色を具体的にイメージできる地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版を豊富に掲載している。特に地図については、読み取りや比較のしやすい地図表現を施すことで、読図を容易にしている。
- ②文字はユニバーサルデザインフォントを使用しており、地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版類は、カラーユニバーサルデザインに対応した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるよう配慮している。

第5の観点 (オ) 言語活動の充実

- ①世界の諸地域・日本の諸地域において、州・地方の概要を大観し、その

	うえで主題学習を進め、単元のまとめに「アクティビティ」に取り組むことで、単元全体で主体的・対話的で深い学びに向かうことができる。
--	--